

3月下旬から4月上旬にかけ、フサモとクロモで発根がみられ、タヌキモとマツモでは分枝が起きた。いずれの種類も発根・分枝が起きた後、伸長速度が大きくなっ

た。特に、タヌキモ、マツモでその変化が激しかった。浮葉植物のトチカガミは他の種類とやゝ違った伸長パターンがみられた。

## 知多半島で2番目ヒメコウホネ確認

磯部亮一・中井三従美

知多半島の武豊町市原地内で、ヒメコウホネ *Nuphar subintegerrimum* Makino を確認してからすでに4年程経過している。その間、多数のため池を概観してきたが、ヒメコウホネの生育地は極めて少なく、今年になってようやく常滑市松原三郎谷地内において、群生するため池を新見することができた。まだ花を観察していないので、確実とは言えないが取り敢えず報告しておきたい。

当概地は、常滑市所有の自然林でこれまで陶芸村の設営予定地で、一般の立入りが禁止されていた場所である。

常滑市がここを植栽木中心の松原公園として造成していることを知り、今年2月28日に業者の許しを得て園内の植物など調べてみた。西側の入口から車道が頂上に向かって完備されている。道路の左下に4ヶ所の小さなため池がある。その1ヶ所に水生植物が残存している。

陽気もよくなり、水生植物も生長を始めたことである



ヒメコウホネの浮葉 1987. 5. 6 撮影  
知多半島で2番目の産地常滑市松原公園

うと5月1日から再調査を実施中である。地下茎、水中葉、浮葉などの形状から判断して、筆者らはヒメコウホネであろうと確信している。

その他の水生植物として、ホソバミズヒキモの沈水葉、タヌキモ類の生育もこの池で確認している。いずれ花を観察して他の種名も同定したら、常滑市にも進言して後世に残したいと思っております。

## 教材植物“ヒルギ”を育てる

南 敦

ヒルギ(マングローブ)は高等学校「生物」教科書の“生態・分布”、“胎生樹”、“気根”などのところにしばしば出てくる。いままで写真を見せたり、スライドを投影したりしていたが、何とかして実物を見せたいと思っていた。

昭和60年5月、山口県立佐波高等学校教諭で生物担当の池本忠平先生から完全な葉が2枚、側根がわずかに生えたヒルギの小苗を3本いただいてバケツに育てて見た。土は田土、肥料は市販のポットボールをごく少量、水は水道水を用い、大低水深3~8cm、時に水が干上っている。冬は最低5℃以上になる温室に入れている。昭和62年2月30日現在、写真のようによく生育している。授業の時はバケツごと教室にもち込み窓側などに展示してい



図1. 知多半島におけるヒメコウホネの産地